

## 令和 8 (2026) 年度 入学宣誓式 学長式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんの入学を心から歓迎いたします。また、ご列席くださいましたご家族の皆さまにも、お祝い申し上げます。誠にありがとうございます。そして、ご来賓の皆さまにおかれましては、ご多用の中ご臨席を賜りましてありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

新入生の皆さんが入学した山陽学園大学、山陽学園短期大学は、どんな学園なのか。一言で言えば、山陽は「古くて新しい学園」「新しくて古い学園」です。

山陽学園は、前身の山陽英和女学校の開設から数えて、今年で 140 年目を迎えます。長い歴史、伝統のある学園です。学園の基礎を築いた<sup>かじろよし</sup>上代淑先生は、生徒と教職員に「愛と奉仕」の精神を説かれ、その教えが本学の教育理念として脈々と受け継がれています。

本学はこの教育理念に基づく人間教育をずっと行ってきました。これからも行っていきます。だから、山陽学園は、「どこか懐かしい、古い学園」なのです。

その一方で、本学は、時代と社会の要請に応えながら、つねに進化、アップデートを続けてきた新しい高等教育機関です。学生の皆さん方には、それぞれの専門分野で、最先端の学びに取り組み、実践的な力を身につけてもらいます。そういう意味で、本学は「進化し続ける、新しい学園」であります。

本学の“Student First”というブランドメッセージは、上代淑先生が、ことあるごとに生徒一人ひとりを大切に、山陽は「生徒第一じゃけえ」とおっしゃっておられたことから来ています。言うまでもなく、この生徒第一は、「生徒の成長」第一ということでもあります。本学の“Student First”は、教育というサービスの受け手である学生におもねることではなく、学生たち一人ひとりの成長をしっかりと支えること、そして成長につながる出会いを大切にすること、そういう私たち教職員の姿勢、決意を、この短いモットーで表しています。

ところで、“Student First”というブランドメッセージと、「あなたが変わる出会いがある」というコピーが、本学の大学案内などでは、いつもセットで使われています。

ここで、人間形成に関わる「Planned Happenstance Theory」について話します。どういうセオリー、理論なのか。Planned は「仕組まれた」ということ、Happenstance は偶発性、平たく言うと「たまたま」ということですから、この理論は、直訳すると「仕組まれた、<sup>たまたま</sup>偶発性の理論」ということです。それは、こういう考え方です。

人間のキャリアというものは、本人が予期していない偶然の出来事によって 8 割がた左

右される。だとすれば、偶然たまたまに対してポジティブなスタンスでいる方が、キャリアアップにつながる、という考えです。

ここで、偶然の出来事 (Happenstance) を「出会い」という言葉で置き換えてみましょう。「あなたが変わる出会いがある」という本学のコピーには、偶然の「出会い」があなたを変えろということ、そのような「出会い」が山陽学園にはPlannedされている、仕組みられているということ、そして、そのような「出会い」に対して、これをポジティブに捉えて、積極的に行動せよ、というメッセージが含意されています。

偶然の出来事に対して、これをポジティブに捉えて、積極的に行動できる人は、現状を固定的に捉えない「柔軟さ」があります。物事のよい面に目を向ける「楽観性」があります。知らなかったものに関わろうとする「好奇心」があります。そしてリスクをとって行動する「冒険心」があります。

これらの柔軟さ、楽観性、好奇心、冒険心が、さらなる成長の機会をもたらすのです。

わたしたち教職員の側からは、皆さんが大学という「成長の舞台」で、「偶然の出来事」と出会えるように環境を整えます。学生の皆さんに積極的に行動するよう呼びかけます。山陽学園には、ハプスタンス（たまたま）を、プランド・ハプスタンス（仕組みられた・たまたま）にしていく仕掛けがたくさんあります。その「仕掛け」というのは、山陽学園では、実践的なカリキュラムの中で、あるいはカリキュラム外のさまざまな取り組みの中で、思う通りにはならない困難と向き合い、それを乗り越えることで、新しい自分（＝成長した自分）と出会えるチャンス機会がたくさんある、ということの言い換えであります。

出会いがあなたを変え、新しい自分と出会う。本学に入学した皆さんには、山陽学園という「成長の舞台」で、偶然の出来事に対してポジティブであり、積極的に行動することを期待します。

皆さんの「学生時代」が、「あなたを変える出会い」によって、「新しい自分と出会う」、「成長の物語」となることを祈念して、式辞といたします。

令和8年4月1日

山陽学園大学・山陽学園短期大学  
学長 毛利 猛